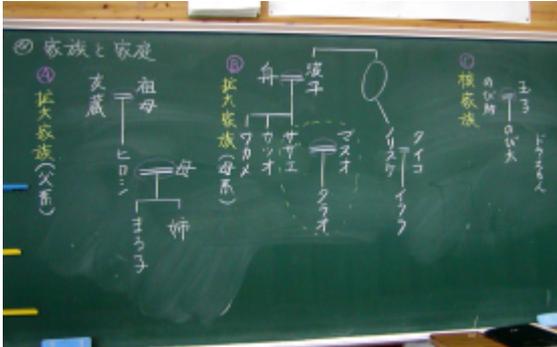


アニメを題材にして家族について考えよう

【指導時数】
1～2時間



■ 題材のねらい

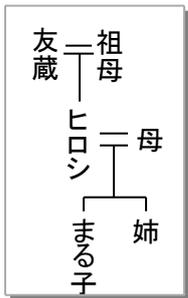
- ① 家族の構成とその役割がわかる
- ② 家族の形態別に、その長所と課題に気付く
- ③ 現代の家族の抱える課題に気づき、解決策について考えることができる

■ 題材の特色

- ① 「家族」という、人権上微妙な題材について、誰もが知っているTVアニメの家族を取り上げることにより、プライバシー上の心配をすることなく学習することができる。
- ② 生徒にとって関心の高いTV番組の登場人物でもあり、楽しくにぎやかに取り組むことができる。
- ③ 「ドラえもんはのび家の家族か？」という課題を通して、家族の役割やあるべき姿を、興味を持って考えることができる。
- ④ 幼児や高齢者の目線で家族を捉えることにより、現代の家族の抱える課題に気づき、次時以降の発展へとつなげることができる。

■ 題材の展開

● 利用する家族関係図

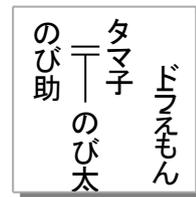


A ちびまるこちゃん一家
＝拡大家族・父(男)系



B サザエさん一家
＝拡大家族・母(女)系

←
ただし、ノリ助さん
一家は、核家族



C ドラえもん一家(のび家)
＝核家族

● 発問内容と授業の流れ

教師の発問と支援	生徒の活動や発言の様子	備考・留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「日本で最も有名な三大家族を取り上げて学習します。」 2. はじめは登場人物の名は隠して（書かずに）、家族関係図のみを板書し、入る名前の予想をさせて、生徒が気付いたら次々に名前を入れていく。 3. A、B、Cそれぞれの家族の形態の違いに注目させる 	<p>〈全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめにAでは「友蔵」、Bでは「波平」などの特定の名前が記入されれば、次々に登場人物の名前を挙げていける。 ・まる子とタラオ、及びのび太の視点から祖父母との関係を比較し、違いに気付く。 <p>〈個人〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族がA～Bのどのタイプに入るか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係図の読み取り方を簡単に説明する ・フラッシュカードなどを利用してよい ・登場人物のキャラクター設定に入り込みすぎないように配慮する。 ・昔ながらの家族は「A」だと思いがちであるが、日本を含むアジアでは「B」の家族形態も多く残されていることに触れ、次の展開への伏線とする。

Aは拡大家族（父系）
Bは拡大家族（母系）
Cは核家族

4. 「それぞれの家族の形で、いい点と、困る点を考えて、ボードに書いて発表しましょう。」



5. 「この中に、核家族に起きる課題をうまく解決している家族がありますが、どの家族でしょう。」

6. 「ドラえもんはのび家の家族でしょうか？班で話し合っってボードに書いて発表しましょう。」



7. 本時のまとめと次時の予告

〈班〉(○が長所・×が課題)

- ・ A ; いつも誰かが家にいて寂しくない(○)
嫁姑関係が辛そう(×)
助け合うことができる(○)
にぎやか(○)、うるさい(×)
家族旅行に行きにくい(×) = (経済的にも好みの点でも) など
- ・ B ; ほとんどAと同じであるが、
「マスオ」さんが辛そう(×)
でも、女同士の嫁姑関係よりも、うまくいきそう(○) など
- ・ C ; のび太がのびのびと生活できる(○)
高齢者とのつながりがないので、接し方を学べず、いざ両親介護の問題になったときに課題が多い。(×)
家が狭くても収入が低くてもいい(○)
のび太が幼児だったら、タマ子が何かと困る。(×) など
- ・ 「ノリ助さんの家族だ！」
- ・ 「頻繁にサザエさんの家に入出入りしているので、子育ての悩みがあまりないし、いろんな相談も出来てストレスが貯まらない。」
- ・ 「イクラちゃんもタラちゃんもまだ一人っ子だけど、交流によって兄弟のような関係」

〈班〉

- × 血のつながりがない
- × 途中からやって来た
- 食事を一緒にするし、お小遣いもおやつももらっている = 経済の同一性
- 無償でお手伝いをしている
- 「ただいま」と言って帰ってくるし、「行ってくるね」と未来に行く = 生活の本拠地がのび家
- のび太の両親からしつけを受けている
- 家族のことを心から心配したり助け合ったりしている
- お互いに「家族だ」というところのつながりがある。「愛」がある

〈個人〉

- ・ 本時の自己評価を行うと共に、「家族との関わりの中で、今自分にできること」という課題について考える。

・ 一時間扱いで行うときには、班活動ではなく、全体での発表形式にして時間の短縮を図る。

- ・ 生徒の気づきや発想を大切にしながら、多くの意見を引き出す。
- ・ 特定の家族形態をことさらに否定したりしないように留意する。
- ・ はじめは「幼児の養育」や「高齢者介護」という視点に気付くことが難しいので、机間指導等しながら助言していく。
- ・ 生徒の発言をまとめながら、現在、「少子化」が問題となっており、その原因として核家族の増加と共に、「**核家族の孤立化**」がキーワードになっていることにも触れる。
- ・ 親戚であろうがなかろうが、以前の日本では家族同士の交流が密接であり、日頃からの地域の協力が大きかったことを伝える。「**となり**」のトトロ」のサツキ&メイの家族と、勘太&おばあちゃんの家族の例を引くとわかりやすい。
- ・ 「未来からやって来た」「ロボットである」などという意見については、今回は考えに入れない条件をつけると焦点化しやすい。
- ・ 「血縁」は、家族の条件の一つではあるが、その他に**様々な家族の機能がある**ことを確認する。
- ・ 物語中では「友だちだ」という表現があるものの、トータルで考えると、「**ドラえもんは家族である**」といえることを確認する。
- ・ 題材を通じて考えたことを「個」にかえし、自らの家族と自分との関わりについて振り返らせるようにする。

◆ 指導・支援のポイント ◆

- ☆ 生徒にとって、意欲的に取り組めるキャラクターではあるが、著作権上には十分に配慮する必要がある。
- ☆ 「家族」についての認識は、流動的で確立し辛い問題でもあるので、指導者の考えや意見を押しつけることのないように配慮する。
- ☆ 題材としてはアニメの登場人物を取り上げるが、その設定にばかり気を取られないように、あくまで「代表的な家族の例」という視点からそれないようにすることが必要である。
- ☆ 発表ボードは、色画用紙をラミネート加工し、裏にマグネットを貼ったものを利用すれば、○×別や、班別の識別にも都合よく使える。

◆ 評価のポイント ◆

- ☆ 話し合いに積極的に関わり、自分の意見をよく出している。(関心・意欲・態度)
- ☆ 読みやすくポイントを押さえて発表ボードに書くことができる。(創意・工夫)
- ☆ 家族の形態と機能について理解できる。(知識・理解)
- ☆ 自分と家族との関わり方から、今後自分にできることを発見できる。(技能)